



日米が相次いで利上げ

9月第3週、日米の中央銀行が相次いで利上げを決定しました。

背景や市場の受け止め、今後のポイントについて確認しておきましょう。

<POINT>

- FRBは2年前の利下げ開始後初の利上げ、タカ派姿勢に
- 日銀は3カ月ぶり利上げ、ペースは加速もハト派的な印象
- 日米とも今後の利上げペースが焦点に

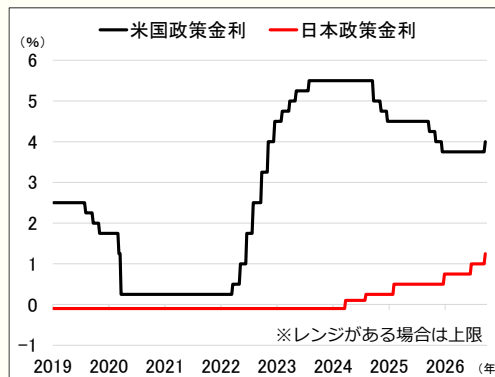
日米が相次ぎ利上げ

- 米国のFRB（連邦準備制度理事会）は9月15-16日開催のFOMC（連邦公開市場委員会）で**0.25%の利上げ**を決め、FF金利目標レンジを3.75-4.0%としました。2024年9月の**利下げ開始後初**、2023年7月以来の利上げです。

- 米国景気が堅調ななか、**インフレは年3%を超えて**おり、足元の**原油高**などで高止まりが懸念される状況です。FRBは今回の利上げ決定の理由について、**インフレを目標の2%に早期に戻すため**、としています。

- 一方、**日銀**も17-18日の金融政策決定会合で**0.25%の利上げ**を決め、無担保コール翌日物の誘導目標を1.25%としました。政策金利は**1995年4月以来の水準**です。
- 日銀は、基調的な**物価上昇率は目標の2%に近づいている**との認識ですが、原油高や円安などで**上振れリスク**があるとしています。一方で、金融環境は**依然緩和的**であり、リスクを踏まえて**緩和の度合いを調節**した、としています。

【日米政策金利の推移】



※週次、2019年初～2026年9月18日、同日の日銀決定含む
(出所) QUICKよりちばぎんアセットマネジメント作成

※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

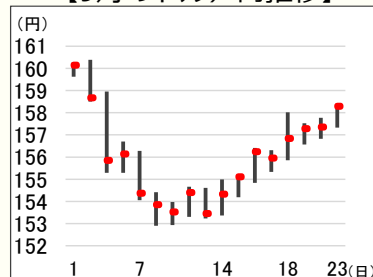
- 本資料はちばぎんアセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。
- 本資料に記載された当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。



日米の姿勢に違い？ 為替は円安に

- FOMCでは、**全会一致で利上げを決定**したほか、公表された経済見通しでメンバーの大半が**年内1回以上の追加利上げ**を見込みました。また、**ウォーシュ議長**は自身の予測を示していませんが、会見では**インフレ2%目標を強調**、加えて利上げ後も**環境は依然緩和的**との認識を示すなど、**追加利上げに前向きな印象**です。
- 利下げを求めるトランプ大統領に任命されたウォーシュ氏ですが、FRBのタカ派的な姿勢とともに、**政治からの独立性**も示した形です。
- 一方、**日銀**の利上げ決定には、委員9名中**2名が反対**し、据え置きを主張しました。また、**植田総裁**は会見で、会合前に一部委員が一般論として言及した**連続利上げや大幅利上げについて慎重**な見解を示すなど、**総じてハト派な印象**を与えるものでした。
- **為替市場**では、**FRBのタカ派姿勢**を受け16日のFOMC後に**ドル高**の動きとなっていました。18日には**日銀会合のハト派的な印象**から、**一段の円安ドル高**が進みました。

【9月のドル／円推移】



※日次、2026年9月1日～23日

(出所) QUICKよりちばぎんアセットマネジメント作成

今後の利上げペースは？ 影響は？

- 市場は来年半ばにかけ、**FRBの3回程度の追加利上げ**を見込む一方、**日銀の利上げは2回程度**とみています。こうした市場の予想がどう変化するか、そして当局が実際にどう動くかが為替相場に大きく影響します。
- **FRB**では、年内追加利上げ後のさらなる利上げについては考えが分かれており、今後の**物価動向**が判断の鍵となりそうです。一方、**日銀**は**利上げを続ける姿勢**を示していますが、ペースや最終的な到達点については市場の見方も分かれています。原油価格や為替相場、利上げの経済への影響などをみながら**総合的に判断**していくとみられます。
- 為替相場が日本企業の業績に与える影響は以前ほどではないものの、小さくはありません。為替相場や株価の先行きを占ううえでも、日米金融当局の姿勢に要注目です。

※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

- 本資料はちばぎんアセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。
- 本資料に記載された当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。